

第5回「道德のまち笠松」のつどいを開催

講演 『いきで 素敵な 江戸しぐさ』

こし かわ れい こ
越川 禮子 さん

道德のまち笠松のつどいが、3月2日に中央公民館で開催されました。

会場となった大ホール前には、「あいさつのまち」「きれいなまち」「ささえ合うまち」の各コーナーを設置し、これまで道德のまちづくりで取り組まれてきた「あいさつ運動」や「ポイ捨てゴミ拾い運動」などを紹介しました。「あいさつ絵本」、情報誌「ささえ合うまち」や「缶バッジ」の配布なども行われました。



展示コーナーで取り組みを紹介



トンボ天国での取り組みで心をはぐくむ活動を紹介

つどい第1部では、下羽栗地域にあるトンボ池周辺の草地を守り、トンボのえさとなる昆虫を増やそうと大量のタケを伐採した取り組みが紹介されました。自然を守る心をはぐくもうと昨年7月に、“トンボ池を守る会”と“道德のまち笠松推進会議”が呼びかけて行われました。当日は180人が伐採に必要な道具を持ち寄り、暑い中、広い区域のタケをわずか1時間ほどで伐採。ボランティアの心を大切にする町民の心と力が発揮され、すばらしい取り組みであったと多くの人が感じました。

つどい第2部は、“NPO法人江戸しぐさ”名誉会長の越川禮子さんによる「いきで素敵な江戸しぐさ」と題する講演がありました。江戸しぐさ(思草)は、江戸商人が商売を繁盛させようと、共生の心を具体的な姿としてにじみ出させたもので、「傘かしげ(雨の日に互いの傘を外側に傾け、ぬれないようにすれ違うこと)」などの実演も取り入れ、話されました。また、江戸商家での子育て「三つ心(三歳で素直な心を作る)、六つ躰(六歳で節度ある振る舞いを覚えさせる)、九つ言葉(九歳で人様に聞かれても恥ずかしくないような正しい言葉を覚えさせる)」など人間教育の基本であると、今は忘れられがちな家庭での子育てなどを語られました。江戸しぐさは「“知ること”でなく“すること”」と締めくくられ、生活に生かせることや、教えられることが多い話でした。



講師 越川禮子さん(右)と江戸しぐさ(傘かしげ)の実演